

社会資本総合整備計画

事後評価書

令和08年09月18日

計画の名称	函館港における安全でにぎわいのある港づくり（第2期）													
計画の期間	令和03年度 ～ 令和07年度（5年間）										重点配分対象の該当	○		
交付対象	函館市													
計画の目標	地域の特性や優位性を活かした学術・研究機関が集積する水産・海洋の拠点形成にあたり、緑地の整備をおこない、港湾環境の向上を図る。 市民や観光客が港や海に接することができる親水空間を整備するとともに、函館港発祥の地として歴史的港湾施設の保存修復を図る。													
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）		2,051	A	2,051	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A+B+C+D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		R03度当初	R05度末	R07度末
1	函館港弁天地区緑地の利用者数 弁天地区緑地利用者数を測定する	0人/年	0人/年	26000人/年
2	函館港末広地区緑地の利用者数 末広地区緑地利用者数を測定する	600000人/年	800000人/年	800000人/年
3	函館港大町地区緑地の利用者数 大町地区緑地利用者数を測定する	136000人/年	136000人/年	146000人/年

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－

A 基幹事業																			
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名／ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
港湾事業	A02-001	港湾	北海道	函館市	直接	函館市	重要	建設	弁天地区緑地の整備	緑地 A＝1.8ha	函館市／函館港 ・弁天地区	■	■	■	■	■	913	—	
	A02-002	港湾	北海道	函館市	直接	函館市	重要	建設	末広地区緑地の整備	緑地 A＝0.4ha	函館市／函館港 ・末広地区	■					928	—	
	A02-003	港湾	北海道	函館市	直接	函館市	重要	建設	大町地区緑地の整備	緑地 A＝8.0ha	函館市／函館港 ・大町地区				■	■	210	1.3	—
											小計						2,051		
											合計						2,051		

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制

函館市港湾空港部において実施

事後評価の実施時期

事業終了後、令和8年9月

公表の方法

函館市港湾空港部ホームページ

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する
交付対象事業の効果の発現状況

- ・ 弁天地区緑地の整備は完了していないことから利用者はいない。
- ・ 末広地区緑地では市民や観光客の利用があり、賑わいが創出されている。
- ・ 大町地区緑地では整備が完了していないことから、利用者の増減はない。

定量的指標以外の交付対象事業の
効果の発現状況（必要に応じて記述）

- ・ 末広地区緑地では、周辺の景観と調和のとれた整備が行われたことから、港湾環境の向上が図られた。

○特記事項（今後の方針等）

- ・ 弁天地区では、国直轄事業により船だまり整備事業が継続して実施されていることから、事業完了時には更なる利用者の増加が見込まれており、引き続き関係する事業と進捗を合わせながら実施していく。

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1			
	最 終 目標値	26000人/年	限られた予算状況の中，事業の優先度を考慮しながら事業費を配分するとともに，関連事業の進捗に合わせて緑地整備を実施する必要があったため。
	最 終 実績値	0人/年	
2			
	最 終 目標値	800000人/年	
	最 終 実績値	800000人/年	
3			
	最 終 目標値	146000人/年	事業を次期計画に移行し継続して実施中のため。
	最 終 実績値	116000人/年	